

## 第 2 回 兵庫県自転車活用推進計画策定協議会 議事要旨

1. 日 時 令和元年 9 月 3 日（火）15 時 00 分～17 時 15 分
2. 場 所 ラッセホール 5F サンフラワー
3. 出席者 楠田委員、黒河内委員、関委員、梶尾委員、藤本委員、古田委員、山中会長
4. 議事

- ①第1回協議会結果の確認
- ②「兵庫県自転車活用推進計画」について
  - ・計画の背景、将来像、基本方針、目標について
  - ・想定される施策、取組について
  - ・計画の推進体制・計画のフォローアップについて

### 5. 委員からの主な意見

＜資料 1-1：第 1 回協議会で頂いたご意見に対する対応、資料 1-2：第 1 回協議会の意見を踏まえた自転車の現状に関する追加項目、資料 1-3：県の自転車安全教育・啓発の取組（ライフステージ別）事務局より説明＞

- ・質疑応答なし

＜資料 2：計画の背景、将来像、基本方針、目標、資料 3：計画の目標 事務局より説明＞

- ・計画の目標「まちづくり」は、現在は自転車の通行空間整備や利用環境の整備などのハード面の内容となっているが、「まちづくり」とは、ハードだけを整備するものではないため、違和感がある。
- ・計画の目標に対して、数値や指標は設定するのか。設定するのであれば、KPI や KGI など、数値化をどのように設定するのか。
- ・なぜ自転車を活用していかなければならないのかをはっきりさせる必要がある。それらを整理し、解決するために自転車を活用する必要があるという流れを整理しなければならない。
- ・自転車を活用することが当たり前のように始まっている感じはある。自転車を活用する理由を背景や将来像のもう一つ上のレベルなど、立て付けを検討していただきたい。
- ・社会問題はたくさんあって、自転車は様々なものに関わっている。全ての解決策は自転車であるとは言いがたいが、自転車は様々な問題を解決していく、だから自転車を活用していきましょうというような説明があると良い。
- ・自転車は、環境に配慮された移動手段であることは非常に重要な観点であり、計画の背景の冒頭に入れてほしい。
- ・将来像の「花開く」は「花開いた」の方が良いのではないかと。
- ・計画の目標「まちづくり」には、自転車にやさしいまちづくりだけでなく、歩行者への意識の観点も含むような文言の方がいいと思う。
- ・自転車の可能性を広げるためには、様々なタイプの自転車があることや、自転車の点検・整備のこと等、自転車という乗り物について、小さい頃から学んだり人々に知らせる視点が必要である。
- ・施策 10「魅力的なサイクリングルートの創設」について、「魅力的な」をもう少し具体的に表現する必要があると思う。早いスピードで楽しみたい人、アップダウンを楽しみたい人など様々なタイプがあるので、「多様な」のような文言を使用した方が観光施策の幅が広がると思う。また、創設すると同時に、プロモーション・アピールをしなければ施策の実行に結び付かない。
- ・サイクリストは、スポーツサイクルから移動手段としての利用まで、非常に多様で幅が広い。施策 11 等の施策の中で、単に「サイクリスト」ではなく、多様、多彩など、ダイバーシティの感覚を入れておいて欲しい。

＜資料：吉田委員からのご意見 事務局より説明＞

- ・高齢者の自転車事故の死亡者数が高いことを示しているデータがあるが、自転車事故の第一当事者は、大半が若年層であることも示さないと高齢者の事故が多いと勘違いされる。
- ・自転車側がルールを守るだけでなく、自動車ドライバーの安全意識の向上についての取組を記載する必要がある。弱者優先という基本的なプライオリティは決まっている。
- ・ルール以前に「兵庫県の人はいいよね」と他県の人から言われるような、思いやり、安全教育等が行き届いた県になるという思想が入るとよいのではないかと。
- ・免許返納した高齢者が、いきなり自転車を利用することは難しいので、通勤・通学からずっと乗り続けられる体作りが必要である。

#### <資料4：想定される施策、取組 事務局より説明>

- ・施策の実行性を上げるため、また、施策を検証するために、各施策には可能な限り、将来像を見据えた上での数値目標を設定していただきたい。
- ・ツーリズムに関しては、県だけではなかなか動けない話であるため、民間との連携をどのようにしていくかなどの体制づくり・場づくりについて記載することが重要である。
- ・モデルルートを作っても、全員が自転車を持ってくるわけではないので、民間のレンタサイクル事業が必要だが、自転車業界は非常に厳しく、行政のバックアップを考えてほしい。また、モデルルート以外のサイクリングロードとモデルルートの連携ができればいいと思っている。
- ・主婦の方々や、通勤・通学で自転車を利用する方々が、自転車が安全に通行できる方法などを話し合う場などがあればいいと思う。また、幼児の頃から自転車教育をしっかりとやってほしい。
- ・自転車に乗っている子供に対して、自動車ドライバーが幅寄せする行為は絶対に許せない。自動車免許教習でドライバーに自転車への対応を教えるようにしてほしい。
- ・資料に示されている通り、自転車安全教育・啓発の取組みは、各ライフステージにおいて実施されているが、違反割合が増加している現状を踏まえると、取組みの中身を改善しなければならない。
- ・従来の交通安全教育にとどまらず、全国や世界で実施されている取組みを参考に、多様な交通安全教育を取り込んでいく姿勢を示す必要がある。
- ・中学や高校から自転車通学が始まるが、技能が身につけていない状況で通学利用するため、危険性が高い。自転車通学が始まる前の教育が非常に重要。
- ・自転車の販売事業者等から自転車の安全について教わる機会が多いと思うので、そのような方々と連携していくことが重要。
- ・これからは電動キックボードなどの様々な移動手段、パーソナルモビリティが増えてくることが想定されている。それらの受け皿となる道路の整備方法が今後の大きな課題の1つである。
- ・自転車がいろんな交通手段をつないでいく考え方は、様々なところでやろうとしているので、少し入れておいた方がよい。
- ・災害時に、空気入れや着替えの貸出など、協力いただける自転車事業者を設定しておくような施策は重要。
- ・ただ単にサイクリングルートを作るのではなく、地域の観光資源を発掘していく取組みや、未だ観光資源となっていない資源をブラッシュアップして、新たな観光資源としていくような取組みがあれば良い。
- ・サイクルツーリズムが地域の稼ぐ力になることをもっと知ってもらえると、地域の方々が様々な取組みを実施していくと思う。
- ・インバウンドへの対応は、経済面においても非常に重要になってくる。民間と連携しながらどのようにプロモーションしていくのが重要。
- ・徳島県と淡路島を結ぶ大鳴門橋のサイクリングルートの整備は、積極的に検討していくことがわかる記載をしてほしい。
- ・観光業者、自転車を売っている方々、IT業者等、いろんな民間を座組みしてつないでいくことが行政としての役割である。それを意識した書き方をしてほしい。
- ・安全教育について、どの部署・組織がどのような取組みをしているのかをコーディネートするような、体制的なことをしっかりとやった方がいいのではないかな。

#### <資料5：計画の推進体制・計画のフォローアップ 事務局より説明>

- ・ワーキングの開催は、関係部局だけでなく、有識者も含んで開催するようにしてほしい。また、フォローアップの結果は、県民へ公表することを約束してほしい。
- ・PDCAのプランに評価軸をしっかりと入れてほしい。チェックが活かされないとアクションに結びつかないので、評価軸を検討してほしい。
- ・いきなり目標が書けないものは、2年間かけて勉強する、協議の場をつくるなど、段階的に取り組んでいくことがわかるように記載してほしい。

以上